

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド  
愛称: ベスト・アルファ

マンスリーレポート  
基準日 2022年2月28日

【運用実績】

過去のパフォーマンス(%)	直近の分配実績(円)			
	ファンド	TOPIX配当込		
過去1ヵ月間	-0.97	-0.43	第15期 2017/3/10	0
過去3ヵ月間	-8.85	-1.97	第16期 2018/3/12	0
過去6ヵ月間	-5.14	-2.79	第17期 2019/3/11	0
過去1年間	-3.67	3.36	第18期 2020/3/10	0
過去3年間	18.67	25.89	第19期 2021/3/10	0
設定来	171.43	145.56	設定来累計	1,300

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	58.8	31
ショート	-30.4	38
ネット	28.4	-
グロス	89.2	-

※ 比率は対純資産総額  
※ ネットはロングとショートの差引、グロスはロングとショートの合計です。

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	48.8
東証2部	0.5
東証マザーズ	5.8
ジャスダック	3.7
その他市場	0.0

※比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

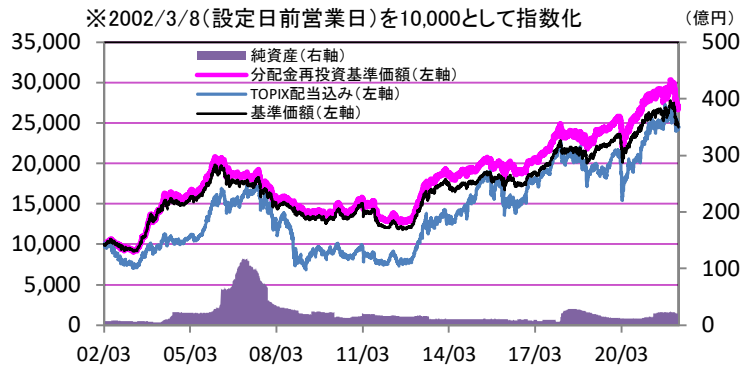
業種	比率(%)
機械	11.5
サービス業	8.7
電気機器	8.6
情報・通信業	5.5
金属製品	4.8
その他	19.7

※比率は対純資産総額

【基準価額・純資産総額の推移】

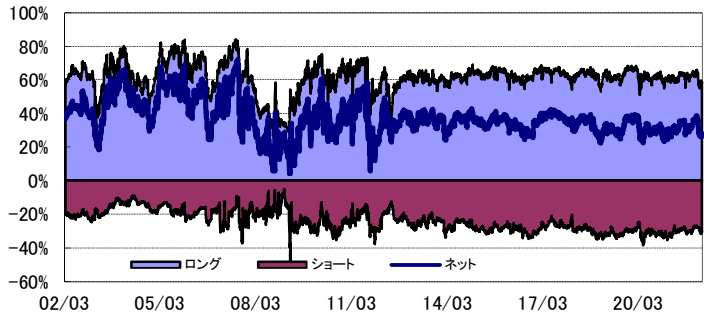
基準価額	解約価額	純資産総額
24,907 円	24,833 円	20.28 億円
ハイ・ウォーター・マーク 26,830 円		

※ 基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。  
※ 当該ハイ・ウォーター・マークは、当ファンドの毎計算期間末(毎年3月10日、休日の場合は翌営業日)および毎計算期間の最初の6ヵ月終了日に更新される場合があります。詳しくは委託会社にお問い合わせください。



※2002/3/8(設定日前営業日)を10,000として指数化  
※基準価額は信託報酬・実績報酬等控除後です。  
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものとして計算しております。  
※当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。  
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



※ 比率は対純資産総額、ネットはロングとショートの差引

【組入有望証券上位10銘柄(ロング)】

	銘柄	業種	比率(%)
1	東急不動産ホールディングス	不動産業	4.0
2	ギフト	小売業	3.8
3	SMC	機械	3.7
4	DMG森精機	機械	3.6
5	UTグループ	サービス業	3.6
6	村田製作所	電気機器	3.5
7	SUMCO	金属製品	3.0
8	東京エレクトロン	電気機器	2.6
9	SBIホールディングス	証券、商品先物取引業	2.5
10	THK	機械	2.5

※比率は対純資産総額

※ 上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。

※ 「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等については当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド  
愛称:ベスト・アルファマンスリーレポート  
基準日 2022年2月28日

## ファンド・マネージャーのコメント

## 【市況状況】

2022年2月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は前月末比0.43%の下落となりました。

当月の日本株式市場は、米国の労働省が発表した1月の雇用統計で市場予想を上回る雇用者数の増加があったことから、一旦は金融政策の引き締めに対する懸念が広がりましたが、国内では非製造業を中心に、決算が好調な企業に買い注文が強まり、上昇して始まりました。

月半ばには、米国のCPI（消費者物価指数）が前年同月比7.5%上昇し、約40年ぶり最大の増加幅を記録したことや、ウクライナでの地政学的リスクが高まったことから下落に転じました。

月後半には、ウクライナ情勢の緊迫化から株価は大幅安となりましたが、その後買戻しの動きがあり、下落幅を縮小して月を終えました。

## 【運用状況】

2月の当ファンドは、アンビスホールディングス、SMCなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。

アンビスホールディングスは、2022年9月期第1四半期決算が、既存施設の高稼働により大幅な増収増益になったことで通期業績の上方修正期待が高まり株価が上昇しました。SMCは、発表された2022年3月期第3四半期決算で通期計画の上方修正に加え、増配と自社株買いを発表したことを好感し株価が上昇しました。

一方、DMG森精機、村田製作所などが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

DMG森精機は、ウクライナ侵攻によるロシアへの経済制裁のマイナス影響により欧州景気が停滞することで、欧州での売上比率が約50%と高い同社の業績動向に対する懸念が高まり株価が下落しました。村田製作所は、今期業績は上方修正したものの、来期以降の業績に慎重な見通しを示したことをネガティブに評価し株価は下落しました。

年初からの株式市場の調整で割安感が増した企業にロング投資、ショート投資の買戻しを行ったことでネット・ポジションは当ファンドの中心的水準である30%程度とし、グロス、ネットともポジションを引き上げました。

## 【運用方針】

年初からの米国での利上げ懸念を機に始まった株式市場の変調に加えて、ロシアによるウクライナ侵攻という地政学的リスクが顕在化したことで株式市場の動揺が続いています。

徐々に顕在化してきた世界的なインフレの動きが短期的な現象にとどまるのか、長期化するのかについては現時点で予測することは不可能ですが、これまでコロナ禍による経済停滞を支えるために続いてきた緩和的な金融環境が終了し、インフレを見据えた金融政策の運営が行われることは確実と考えます。このような環境で次の2点に注目して投資を行っていく方針です。1点目は株価バリュエーションと成長性に対する厳格な評価です。これまでの緩和的な金融環境のなかで、高い成長性を持つ企業に対する評価を、上昇する金利環境を反映した評価に切り替えていく必要があります。成長についても事業規模の拡大だけでなく、収益性を伴った成長の実現可能性に関し、これまで以上に確からしさを追求して評価します。2点目は競争優位性です。資材や原材料、人件費など上昇する調達コストを販売価格やサービス単価に反映させられるか、原価改善やコストダウンで吸収できるかどうか、インフレ経済環境では各企業の競争条件によって大きな差が生まれることとなります。経営判断が競争優位を確保する方向に向かっているかどうか注目に、企業評価を行っていく方針です。

一方でショート投資では、成長市場に属しながらも商品力やサービス内容が一般的で事業の拡大を利益成長に繋がれない企業や、コストの上昇を価格に反映することができない競争優位性の低いと判断した企業を投資候補として調査を行います。経済環境、社会情勢が大きく変化するこれからの時代には、強い企業と弱い企業の格差がより大きく鮮明になっていくことが予想されます。株式市場の上下に左右されることなく、ロング、ショートそれぞれの投資を通じて安定的な投資リターンを積み上げてまいります。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。